



新年度に入り、労働者協同組合をめぐる動きは一層躍動感あるものとなっている。

国政では、協同労働推進議員連盟が4月27日に総会を開催し、当事者団体としてワーカーズコープ連合会からも、多様な分野における新たな労働者協同組合が生まれている状況や、しかしまだまだ労働者協同組合が知られていない状況を報告した。そして都道府県による周知・広報や、基礎自治体における設立支援の強化、さまざまな省庁の政策への位置づけなどを訴えた。

自民党厚生労働部に協同労働推進プロジェクトチームが設置され、立憲民主党の議員連盟、公明党の委員会とともに、協同労働を推進していく体制が強化された。そのような状況下で、6月7日の政府「経済財政運営と改革の基本方針2023」(通称、骨太の方針)の原案が公表され、「包括社会の実現(共生・共助社会づくり)」において労働者協同組合の活用促進が掲載された。

ワーカーズコープ連合会が加盟する労働者福祉中央協議会(中央労福協)では、労働組合及び事業団体が連携して作成する政策制度要請にも、都道府県や基礎自治体における労働者協同組合法の周知・設立支援の要請を入れた。5月より中央労福協の仲間とともに各政党をまわり、お願いしている。

5月末から、労働者協同組合法人となったケアワーカーズコープ北海道、ケアワーカーズコープわたすげ、ワーカーズコープ

みえ、はんしんワーカーズコープ、ワーカーズコープ山口が、労協法人取得後の初の総会を開催している。組合員主体の多様な委員会でケアの質を高め利用拡大につなげる事例、すべての現場でよい仕事を深めそれを交流する取り組み、中間的就労の実績から新しい高齢者の就労支援の業務委託の開始、外国籍の組合員とともに楽しく働く仲間づくりなど、多様な実践が語られ、新たな挑戦につながっていく。

6月に入りワーカーズコープ連合会加盟組織の労働者協同組合法人化も進む。無茶々園では、4つの法人の協同労働の推進やバックオフィスの労協法人化と地域住民による協同労働の推進を目指した、「労働者協同組合無茶々園の森」の創立総会が6月2日に開催。さらに株式会社創造集団440Hzも、6月6日に「労働者協同組合創造集団440Hz」も立ち上げた。労働者協同組合創造集団440Hzの趣意書には、「生きたいように生きよう」「自分たちらしく働く」ことを追求するなかでワーカーズコープと出会い、自分たちから始まる学び・表現を行ってきた自分たちの生き方の先に労働者協同組合がある、自分を押し殺して生きざるを得ない人々に協同労働を届けたいという主旨が述べられている。

ワーカーズコープ連合会も、これら加盟組織の労協法人化された団体や新たに労協法人を立ち上げ連合会に加わった、かりま

た共働組合、Oretachino Camp労働者協同組合連合会、コモンウエーブ、プラスチックフリー普及協会、労協うえだとともに、6月24日に労働者協同組合法人が集まる日本労働者協同組合連合会創立総会を開催予定。

法施行に関わり、ご尽力いただいた多くの皆様、これまでのワーカーズコープ連合会の事業・運動を支えてくださった皆様、そして全国で働く組合員とともに祝い、新たな出発を迎えたい。